

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館	
2 指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 107,836人団体〔個人：107,546人、団体・文庫：290団体〕（前年度比 103.5%） ・ 令和2年度 104,218人団体〔個人：103,955人、団体・文庫：263団体〕（前年度比 84.0%） ・ 令和元年度 124,099人団体〔個人：123,598人、団体・文庫：501団体〕（前年度比 100.2%）	
	《事業》 ・ 仙台市広瀬図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 56,100千円（54,869千円） ・ その他市が負担した費用 8,226千円（8,752千円）	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 19千円（15千円）	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和3年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日：令和4年2月2日～3月15日	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバッグ等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	貸出予約の希望が多い「本屋大賞」候補タイトルの一覧表を作成し利用者閲覧用に設置したり、子どもの読書支援コーナーの棚を拡大して読み聞かせやブックトーク資料とともに関連する一般書も併せて配架し装飾を施している。新聞過日版の綴り単位を細分化する等、利用者への細やかな配慮に努めている。 接遇研修においては認知症の方への対応を学び、全職員が認知症サポーターの認定を受け様々な場面を想定したサービス向上を継続している。職員の資質向上のため、リモート研修等にも積極的に参加している。	27/27
V 施設固有の基準	蔵書管理業務においては、館内整理日を活用して不明資料を洗い出す全点チェック作業を継続的・計画的に実施している点が評価できる。 仕様書に定められた全館共通事業にある「子ども読書活動推進」においては、ヤングアダルト世代（中高生）が選書支援やブックリストの作成等、図書館づくりに参加する選書アドバイザー会議を年に5回、継続的に開催し、若い世代が本に親しみやすい環境を引き続き推進している。 自主事業は、仙台市天文台と連携した「子ども天文教室」、仙台高等専門学校広瀬キャンパスの「古本市」への譲渡本の提供、広報等の協力のほか尚絅学院大学の学生向けに読み聞かせのワークショップを実施した。地域施設などとの連携事業は、コロナ禍においても工夫しながら行われた。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>令和3年度の図書館運営は、図書館振興計画の施策に基づき独自策定の基本方針を掲げて実施した。事業計画を基本としつつ、コロナ禍における感染拡大防止の取組に確かな実効性を持たせるため、時に柔軟な図書館運営にも対応した。1. 基本業務は、図書館の基礎的機能を充実させるための業務効率化や宮城総合支所との協力で継続して取り組んだ。仙台市図書館の非来館型サービスとして開始された電子図書館に関わる対応も着実に実施することができた。2. 自主事業は、開館30周年事業として、館長講演会や演劇公演等の行事や「30」をキーワードとした資料展示、30年間を振り返る年表の作成など、利用者への感謝を示すとともに改めて広瀬図書館の利用を促進する取組を行い、多くの参加者や反響を得ることができた。年間事業参加者数は延べ5,881人に上った。3. 利用実績は、前年度比で利用者数/日（延べ人数）が44.9人増、貸出冊数/日が203.2冊増、返却冊数/日が167.0冊増といずれも増加した。昨年度から実施している館内の感染症対策が利用者の安心感を生み、利用回復の一助となったものと考えられる。4. 職員に対する教育研修は、昨年に引き続きリモート研修を積極的に活用し、指定管理者研修、仙台市図書館主催研修、外部研修に参加した。研修報告書の作成などを通じた研修内容の共有についても継続して実施した。5. 運営の評価は、自己評価や市民図書館による定例監査のほか、第三者評価として「利用者アンケート」を実施した。また、図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的とした「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」は、コロナ感染者数の減少が見られないことから書面開催した。6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、開館30周年を迎え広瀬文化センター・広瀬市民センターとの共催事業「飛び出す紙芝居 劇場版「アーリー博士とレイト怪人」が大盛況であったほか、記念展示「なんでも30」で「30」に関連する資料展示等により利用者へ感謝を込め「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に取り組んだ。</p> <p>また、スタッフによるMY本棚では「SDGs」をテーマに取り入れ、GOALの内容別の展示替えと、インパクトのある書架サインの掲示、環境局家庭ごみ減量課と連携した「せんだい食品ロスダイアリー」の配布や「モッタイナイキッチン」の周知を併せて行った。</p> <p>ヤングアダルト世代を対象とする選書アドバイザー会議は、5回にわたる選書支援・書店への選書ツアー・同世代向けブックリストの作成等によって図書館作りの世界へと誘い、子ども読書フェスティバルで毎年好評の「えいごdeおはなし会」など特色あるイベントを開催するなど読書文化を育む図書館への取り組みとなった。そのほか天文台スタッフサポーターを対象とする読み聞かせ研修、児童向け天文教室、2年連続で中止となった「宮城地区まつり」に代わるイルミネーション点灯イベントの企画運営に加わる等、コロナ禍で臨時休館や主催イベントの延期・中止・変更等を余儀なくされながら、関係機関や地域の施設と連携して工夫を凝らして魅力的な事業を実施している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としては、館内消毒や換気等について、独自チェック表で徹底を図った。</p> <p>職員の教育・研修は、全職員向け接遇研修として認知症サポーター養成講座を実施するほか、各種リモート研修にも積極的に参加し、職員の資質向上を図った。</p> <p>以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館